

安倍家文書目録〔石炭関係分〕

細川, 章
多久市立図書館

<https://doi.org/10.15017/13573>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 3, pp.53-57, 1974-05-27. エネルギー史研究会
バージョン：
権利関係：

安倍家文書目録〔石炭関係分〕

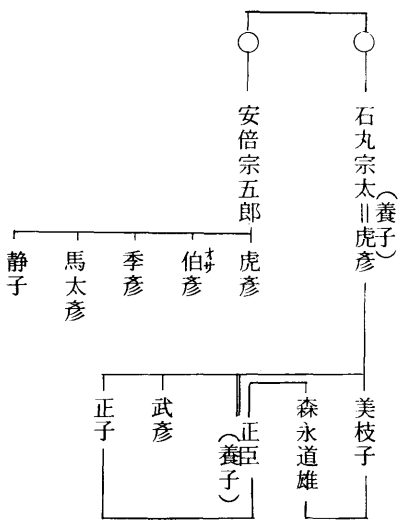
細川章

五年程前、多久市に住まれる石丸正臣氏から、安倍宗五郎の開発した佐賀県東松浦郡巖木村字中島の峠炭坑資料を、多久市立図書館に寄贈して下さいというお話があつていた。其の中の何点かは、同じく多久市に居られる川内昇氏が『多久石炭の話』を書かれる時の資料として見せて頂いたが、残りの分については、何となくその終になつていたので、此の五月十六日に全部届けて下さつて、漸くその全容を知ることができたのである。

これは明治十七年から二十年を中心にあい宗五郎が手がけた炭坑の資料である。峠炭坑に関するものが最も多いが、他にも、柚木原、鼠喰、滝ノ元、鶴牧、北久保山、坂ノ口等が断片的にその名を覗かせている。

あい宗五郎はあい七郎右エ門の長子として、天保二年（一八三一年）八月十二日に多久邑小侍村に生れ、明治四十二年（一九〇九年）同地（当時佐賀県小城郡北多久村字小侍）で歿している。本来は開業医であつた。医学は長崎で学んだと伝えられ、明治初期、既に使用したという手術用具一式が今に残っている。漢方医薬の調剤についても記録があつたそうで、古い家には「チョゴンマ（調剤の間）」という薬部屋が遺つていたので、四年前家を改築した時取り毀してしまつたとのことである。したがつて医学関係の資料が数多く所蔵されてきたが、これは蘭方・漢方を含めて、次男伯彦氏が軍医であつた為関心が深く、御自分の方へ引取られたということである。

あい家と石丸家の関係を示すと次の通りである。



あい宗五郎には四男一女があつた。長男虎彦は宗五郎の従兄石丸宗太の養子となつた。なお伯彦、季彦、馬太彦はそれぞれ職を得て土地を離れたので、養子となつても虎彦はそのままあい家に住んでいた。石丸氏が今にあいさんと呼ばれる由縁である。

虎彦には一男二女があつた。嫡男武彦は昭和十九年六月沖繩で戦死し、長女美枝子は森永道雄氏に嫁したので、次女正子が道雄氏の弟である正臣氏を養子にして石丸家を継いだのである。この人が当文書の寄贈者石丸正臣氏である。

あい家文書もこれ迄出会つたものもろの文書群と同様に、決して完全な形ではない。明治から太平洋戦争及び戦後の混沌期を経過する中で大部分が処分されてしまつてゐる。此処に僅かでも残り得たのは、長持の底にあつた為に気付かなかつたという、全く偶然の事情によるものである。しかし、これだけでも今日陽の目を見ること

が出来たということは、やはり喜ばしいことと思う。早速御寄贈下さった石丸正臣氏には心から謝意を表したい。

文書全体から見ると、石炭関係が六十五点、土地書入証等が二十点、日記書簡等が十点である。

また、目録記載中、標題・年号共に推定分は「」で囲んでいる。推定不能分は「」の中が無記入になっている。標題の下の（）は聊か説明に過ぎると思つたが、標題の固有化を援けたつもりである。書形は表紙のあるものは、枚数に関り無く「書冊」、表紙が無くて四つ目綴じてあるのは「書綴」、片隅をこよりで綴じただけのものは、単に「綴り」として枚数を付している。横長型は長帳で体裁の記述は同様である。一枚のものは「一枚」他に「折紙」「巻紙」は紙の形式をそのまま採つた。

分量が少ないので、こまかい分類はしていない。一覽して御了解頂けるのでその方がよいと思つたからである。

(目録は次頁より)

執筆者紹介(執筆順)

松崎 武俊	福岡藩史研究会会員
秀村 選三	九州大学教授(経済学部)
上 _{ウヘ} 忠	直方市史編纂室勤務
今津 健治	神戸大学助教授(教養部)
川崎英太郎	住友修史室勤務
入江 寿 _ス 紀	西日本鉄道勤務
細川 章	多久市立図書館司書
斎藤 俊彦	NHK資料センター勤務
東定 _{トウテイ} 宣昌	九州大学大学院博士課程(経済学研究科)
崔 泰 _テ 錡	九州大学経済学部研究生(留学生)
田中 直樹	日本大学講師(生産工学部)
左合藤三郎	元『日本労務管理年誌』編纂委員
八 _{ヤチ} 田千恵子	佐賀新聞社資料室勤務

安倍家文書目録（石炭関係分）

米渡帳	明治十九年第六月以降	長帳
礦内仕線日役簿	明治十九年戊辰八月十六日以降	長帳
礦夫勘定簿	明治廿年二月以降	長帳
石炭山坑夫葉佃写（柚木原棟梁太助）	（ 〃 ）	折紙
定約証	明治十七年七月	綴リ（二枚）
借区坑業中定約証	明治十七年第七月	書冊
委任状（小侍村岩本山字鼠喰炭坑借 区三千六百坪の巻面請取の 事）	明治十七年十月六日	一枚
石炭場譲与約定証	明治十九年十二月一日	綴リ（二枚）
借区譲渡願（安倍宗五郎相島弥七よ り松枝常訓へ譲渡願出）	明治十九年十二月二日消ス	綴リ（二枚）
約定証（借区譲渡）	明治廿年五月廿五日	綴リ（二枚）
借区譲受約定ニ対スル返り証	明治廿年五月廿五日	一枚
借区坑業明細表	明治十八年五月八日	六枚
出炭譲渡証	明治廿年二月廿七日	一枚
金受取証（石炭運搬為換定約ニ対ス ル金員ノ筋…）	明治廿年四月六日	一枚
石炭運送為替金請証	明治廿年四月十八日	一枚
石炭為換金請取証	明治廿年四月廿八日	一枚
石炭為換金請取証	明治廿年五月六日	一枚
東松浦郡唐津鷹取土場出炭為換約定 証	明治廿年四月六日結約	綴リ（三枚）
小城郡別府古賀津土場届売炭為換金 約定証	明治廿年第八月結約	書綴
見本献炭	明治十八年十月三日	綴リ（二枚）
石炭方合併社申合規則	明治八年十月	書綴
石炭坑業約定証	明治廿式年七月八日	綴リ（四枚）
石炭坑下請約定証	明治二十二年五月一日	綴リ（二枚）
記（石野屋弥平より刑察方巡查酒井 久五郎へ）	明治八年亥十二月十九日	一枚

借用証（峠炭山棟梁より坑主安倍宗五郎宛）	明治十八年十月廿八日	一枚
証（炭礦仕線金借用証）	明治十八年十一月	二枚
記（炭山道路費受取証）	明治十九年四月十七日	一枚
借金証	明治二十年三月廿二日	一枚
金受取証	明治廿二年一月廿九日	一枚
証券（龍ノ元炭山村補ヒ金…）	明治十九年十二月	一枚
証券（龍ノ元炭山村補ヒ金…）	明治十九年十二月廿八日	一枚
村補金収入約定	明治廿年旧三月十一日	一枚
証（所有地山林煙掛リ且木材代とし て…）	明治廿年十月廿一日	一枚
請取証（村補金）	明治貳拾年旧七月十一日	一枚
請取証（峠石山貳拾年度村補金之内）	明治貳拾老年二月十五日	一枚
進達差止願（峠炭山借区券面ヲ抵当 トシ金員借用…）	明治廿年三月廿九日	一枚
進達御差留願（峠炭山借区券面ヲ抵 当トシ金員借用…）	〔 〕	一枚（後欠）
委任状（鶴牧炭坑幸里得善ト示談ノ 上仕線金トシテ…）	明治廿二年第八月	一枚
〔 〕（安倍宗五郎 外老名ヨリ石炭場譲渡ニ付…）	明治廿年三月	一枚
〔 〕（本年上半年 石炭明細表本月末日進達之期…）	明治廿二年七月廿三日	一枚
定約書事（石炭代金請取の事…）	〔 〕	一枚（後欠）
〔 〕（安倍宗五郎 公より譲与金御差戻し…）	第三月十四日	一枚
三瀧泉若津石野屋弥平ノ貸金催促之 訴ニ付有筋始末書	明治八年十一月十四日	書綴
約定之覚（正院谷新礦口一式代…）	明治六年西十一月	一枚
証（金錢受取証）	明治二十年七月六日	一枚
請取証（明治十九年度村補金）	明治貳拾年二月廿九日	一枚
受取証（明治廿年度道補金）	明治廿年十月十八日	一枚

受取証（明治十九年度ノ補金）

金預り証（森永龍吉より安倍宗五郎

）

北久保山石炭通帳（卯七）

覚（石炭費用差引控エ）

〔請証文之事〕

〔 〕

記

〔坂ノ口炭山頭棟井ノ上忠太郎〕

薬価集

記

記（薬代）

〔記〕

木印判（礦山金券用カ）

〔明治〕廿年五月十三日

明治十九年

〔 〕九月廿七日

〔 〕

〔 〕〔巴七月廿三日

〔 〕

〔 〕

〔 〕

〔 〕

〔 〕

〔 〕

〔 〕

一枚

一枚

折紙

折紙

一枚（後欠）

折紙

卷紙

折紙

折紙

卷紙

折紙

折紙

一個

財団法人 西日本文化協会

野田家日記

佐賀大学名誉教授

三好不二雄氏 監修

三好嘉子氏 校注・解説

● A5判 二〇〇頁 頒価 三、五〇〇円

住時主要な街道の一つであった長崎街道生津宿（佐賀県生津町）の富商野田家の当主が江戸時代後期八十七年間にわたり書きついだ覚書で、家業を重んじて封建の世を生き抜いた商人の記録で庶民の生活を語り、当時の社会的な重要事件にも触れて興味深いものである。